

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 59 janvier 2002 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

フィリップ・シャティニュー総領事が着任 三重日仏協会へ賀詞

在大阪・神戸フランス総領事として昨年秋着任されたフィリップ・シャティニュー氏より下記のような新年のあいさつを頂戴しました。

Philippe Chatignoux
Consul Général de France
à Osaka et Kobe

Vous adresse
ses Meilleurs Voeux
pour la Nouvelle Année

新年あけましておめでとうございます。

在大阪・神戸フランス総領事
フィリップ シャティニュー

Philippe CHATIGNE総領事は、1954年パリのお生まれ。パリ政治学院、国立行政学院などで学ばれたあと、1985年経済・財政・産業省に入省。1988年からオーストラリア、ベトナム、日本などのフランス大使館で商務参事官として勤務、1997年から昨年までは在マイアミ・フランス総領事を勤められ、現職に就かれました。

なお三重県にもたびたび来られた前任のアラン・ナウム Alain NAHOUM総領事は本国に帰任されました。

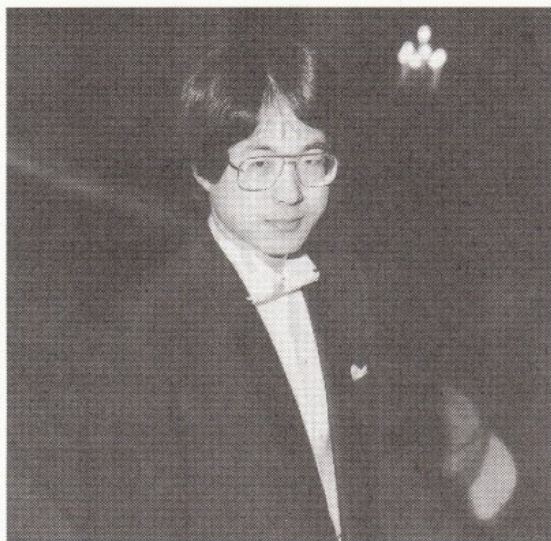
フランスに生きる三重県人 (V)

在仏17年 ドビュッシー全ピアノ作品の録音に挑戦する

伊藤 隆之 さん (四日市市出身・ピアニスト)

のんびり行こうよ…?

伊藤 隆之



ピアノを弾きながら、フランスに住み着いて気が付くと17年。(フランス文化と、言葉にさぞかし精通しているでしょうと言われると穴に入りたくなるので、なるべく言わないようにしていますが…)数年前に複数の作曲家の作品を収録したCDのドビュッシーの録音がきっかけで、次からはドビュッシー1本で行きましょうとCD社から言われ、多くの方のご理解ご援助のもと、シリーズで録音出来るという幸運に恵まれ、こうなったら徹底的に前人未到の、無名の曲やスケッチを含むその全てのピアノソロ曲を研究、録音してやろうじゃないかとなり、ドビュッシーから直接自曲のレッスンを受けたM・ロン教授からその後継者として指名された恩師のG・ムニエ教授の

もと、先頃その6枚中の2枚目がやっとリリースされました。

さて、なぜ“やっと”と あえて申しましたかという、実は1枚目のCDが出たときに印刷の曲目が違っていった事があり、今度は校正に立ち合いたいと言った所、フランスチックにのびのびになり、一昨年12月末に出るからと聞き、ちょうどその時は日本で演奏会があったので「多分、もうフランスで出たと思います」と言い触らしまくって戻ってみたら「校正ついでに略歴も載っけるから帰ってくるのを待っていたんだ」となり、またその校正があり……と息が長いと言うか、のどかと言うかやっと最近リリースとなったのであります。

私のアリオンCD社はフランスで1、2の規模ですが、フランス盤はCD化の時代になっても(宇宙科学やTGV、脳や癌治療等、最先端は本当に進んでいる国なのですが)例えばEMI社から出ているフランスの伝説のピアニスト、S・フランソワのショパンのワルツが2回同じ曲が入っていたり(3年間売られていた!)、エラート社のアメリンクが歌うラヴェルの始めの数秒が無かったりとなんでもあります。この息の長さとおおらかさはフランス社会にも共通したものがあり(車や家電などおおらかすぎて生活するのは大変!Eメールの接続業者のストライキなんてのもあります)、他人の干渉を受けずマイペースで行ける代わりに、自分がしっかりしないと気が付くと何もしないうちに人生が終わっていたなんて事にもなりかねないキビシイ所でもあります。

ドビュッシーの出版元であるデュラン社の倉庫に1日中入り浸り、その人と仲良くなり、無名の小品を発見したり(偉い人が偉ぶらない、当たると何かがあるーダメ元で当たってみないと何も変わらない所もフランスの魅力でしょう)と、私の様にのんびりたったりと研究を進めるのには寛大な打ってつけの所であり、そう、この音楽に賭ける思いを息長く解ってくれるのはやはりこの国だ!とあらためて認識し直し、新しく出来たCDを眺め感慨にふけりながら盤面にある演奏時間をよく見ると(これは私の校正範囲を越えていると思うのですが…)、全曲0分00秒になっている事にふと気が付くのでした……がちょーん!!

伊藤隆之さんは1961年四日市市の出身。パリ郊外ギアンクール市の、その名も『クロード・ドビュッシー通り』に親子3人でお住まい。

最近リリースされた伊藤隆之さんのCD〈DEBUSSY Oeuvres pour piano vol.2〉には、前奏曲集第2巻、エチュード3曲のほか数曲が収録されており、音楽の友社発行『レコード芸術』1月号の「海外盤試聴記」の欄で〈色彩感あふれるダイナミックな演奏…。ドビュッシーの音楽を再発見させてくれる一枚…〉（遠山菜穂美氏）と称賛されています。残念ながら流通上の事情から現在のところ日本で市販されておらず、入手ご希望の方はご実家の伊藤宗平・幸子ご夫妻（本会会員）0593-37-2248までお問い合わせください。

ユーロ切り替え そのときフランスでは

2002年の新年を期して、フランスを含むヨーロッパの12カ国では一斉に統一通貨ユーロ（EURO）に切り替えられました。実際にフランスで生活している「現場」ではどんな状況だったのか「フランスの三重県人」に取材してみました。

財布のなかにはゴチャゴチャ 日の目を見たたんす預金

南仏エクサンプロバンス在住の世古由里子さんは、暮れの27日に銀行で1袋100フラン分のユーロ硬貨をはじめ手にされたとのこと。ユーロの小銭専用の袋が出回っているそうです。新年の切り替え以後、いまはまだフランとユーロが両方流通している段階で（2月17日まで）、フランで支払っておつりをユーロでもらうなど計算にも手間どるため、市場でも郵便局でも待ち時間がかかって長蛇の列が珍しくなく、臨時の整理係も雇っているところもあるそうです。みんな財布のなかには二つの通貨がごちゃごちゃで「海外旅行の時のよう」。

ユーロ切り替えに伴って起こった珍現象としては、これまでヤミで稼いで表に出せなかったお金や、お年寄りの虎の子のヘソクリなどがやむを得ず続々と姿を現したが、銀行が両替を断っているため、どの店でも500フラン札（フランスの最高額紙幣）での買い物が続出、スーパーのレジで500フラン札を出すお婆さんやら、なかには高価な大型テレビや宝石などを現金で買っていく客も目立っている、そのうちまた〈SOLDE〉（バーゲンセール）が始まれば、500フラン札がもっと乱れ飛ぶでしょう、とのことでした。

ATM機のユーロ切り替え ゲルマン系諸国では順調だが

また在パリの伊藤隆之さんによりますと、建て前では1月1日には12カ国の銀行のATM機でユーロが出るようになっており、ドイツでは「問題なく順調に進んでいる」としているが、フランスでは予想通り？ちゃんと準備できなかったところもあるそうです。欧州中央銀行の調べでは、ユーロ詰め替えが100%間に合った国はドイツ、オーストリア、ルクセンブルグ、オランダのゲルマン系の国々だけで、ラテン系の国は結局間に合わなかった様子、この「きれいに二分された」対照が面白いとのご指摘でした。また、新ユーロ硬貨は「厚くてでかくて重い！財布がすぐパンパンになってしまうのは困ったものだ。12カ国も集まって何も考えなかったのか」とぼやいておられました。

11/15 ボジョレ・ヌヴォー パーティー

130人がさわやかな美酒に酔いしれる

三重日仏協会創立15周年記念事業の一環として、初めて本会の主催で取り組んだ2001・ボジョレ・ヌヴォーパーティーは解禁日の第三木曜である11月15日、津市のプラザ洞津で開催され、会内外から約130人が参加して大盛況でした。フランス人招待客の中には本会の会合に初めて参加されたエリック・フレミオ（ドミニク・ドゥーセの店・総支配人）さんやティエリー・ゲートマン（三重大学人文学部）さんらの姿もありました。



パーティーでは数社の生産者によるボジョレのほか、南フランスやイタリー産も含む〈ヌヴォー〉酒がずらりと取りそろえられ、参加者は好みに応じて次々と賞味しました。またアトラクションとして楽しい各種のクイズやトンボラ（福引き）も行われ、秋の夜の更けるのも忘れて談笑と美酒に酔いしれた一夜でありました。

11/5 新潟フランス協会の10周年記念式典

グルド＝モンターニュ大使が記念講演

このほど創立10周年を迎えた新潟フランス協会は、昨秋11月5日ホテル新潟を会場に盛大な記念行事を開催、お招きにより三重日仏協会からもお祝いに参加しました。式典とレセプションには駐日



講演するグルド＝モンターニュ大使

フランス大使、領事のほか、新潟県副知事、新潟市長ら多くの来賓が列席。約300人の参加者を前にモリス・グルド＝モンターニュ大使が最近の日仏関係の諸問題について記念講演されました。またルール市を本拠に世界的に演奏活動をしている〈アマデウス室内オーケストラ〉がアルビノーニやバルトークなどの名演奏を披露しました。

新潟フランス協会（松崎文則会長）は法人会員36、個人会員約220人で、新潟市と仏ナント市との交流協定のもと、活発な経済・文化交流をおこなっております。

「尼子文庫」目録（Ⅱ）

（各種辞書、語学関係）

1. NOUVEAU PETIT LAROUSSE ILLUSTRÉ 新ラールス絵入り小辞典（1956）
2. LAROUSSE POUR TOUS みんなのためのラールス（小辞典）
3. DICTIONNAIRE DU FRANÇAIS CONTEMPORAIN 現代フランス語辞典（ラールス）
4. DICTIONNAIRE MODERNE
FRANÇAIS-ANGLAIS ANGLAIS-FRANÇAIS 現代仏英・英仏語辞典（ラールス）
5. LE BON USAGE Grammaire française 正しい用語法 フランス語文法 Maurice Grevisse
6. 精神分析語彙集 PRESSE UNIVERSITAIRE DE FRANCE
7. JE PARLE NEERLANDAIS オランダ語を話す
8. LES CELTES ET L'EXPANSION CELTIQUE ケルト語とその伝播
閲覧、利用希望の方は0593-51-8031（豊田さん）まで